

平成 18 年 11 月 14 日

第 6 学年 社会科学習指導案

1 小単元名「15 年戦争と新しい国づくり」

2 指導観

○ このような子どもだから

本学級の子ども達は、社会科の学習に対して、「好き」という子が 55%であり、特に歴史学習においては、人物の考えや生き様、業績などの追究に高い興味・関心をもちながら学習を進めてきている。

また、学び方の面では、「調べ学習」をすることは好きと答えている子が 75%を占め、学習場面でも積極的にインターネットで調べたり、関係図書を見つけたりしながら、楽しく追究活動を進めることができている。

しかし、調べている内容が、目的的な追究活動ではなく、事実が自分の予想に結びつくものであるかという点でありまいな点があったり、見つけてきた事実をどのように自分の考えに生かしたりしているのかという点で不十分さが残る。

さらに、話し合いの場面では、自分たちの調べた事実を紹介し合うことで満足し、一つ一つの事実の認識やそこから生み出した自分の考えをぶつけ合うことを苦手としている。結果的に、自分の考えの見直しをはかり、整理することに課題が見られ、確かな自分の考えをもつまでには至っていない。

○ このような教材で

本小単元は、第 1 次世界大戦以降、不景気の世の中から脱却するために、軍国主義に走り、以後 15 年間にわたる戦争を経て、敗戦後、民主的な国家をめざして新しい国づくりを進めていく過程を学習する内容である。

そこでは、第 2 次世界大戦後、敗戦国となった我が国が、連合国の指導のもと、諸改革を推し進め、民主主義国家として歩み始めたことや、戦後の国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解させることをねらいとしている。

自分の考えを整理していくための学習を進めていく中で、日本国憲法の制定や選挙法の改革、教育改革などを断行したことを追究していけば、諸政策を打ち出したことがわかり、民主的な国家を目指して国のしくみが確立したことを理解することができ、オリンピックを招致するために高速道路や新幹線などの交通網が整備されたことや、3 種の神器をはじめとした国民のくらしの様子を追究していけば、国民生活が向上したことが理解できる。

さらに、湯川秀樹をはじめとする日本人のノーベル賞受賞や他国への経済援助などの事実を追究することで、我が国が国際社会の中で責任ある行動をとり、重責を担ってきたことが理解でき、国のしくみを整えながら、復興を果たし、世界の中の日本としての役割を果たしてきた姿をとらえることができる価値高い教材であると考えられる。

また、本単元での敗戦後の国づくりの中で、国民が協力し種々の諸政策を推し進め劇的な復興をとげていく姿は、前単元における明治政府のとった諸政策により国力を充実させていく様子と重なる部分が見られ、前単元に獲得した知識を生かして、自分の考えをつくることができ、予想につながる事実のグループ分けという点からも表現物を使って自分の考えを整理することに適した教材であると考えられる。

さらに、子どもの課題として挙げている事実と事実を関連付ける力が複数の視点から身につけられることから、価値高い教材といえる。

○ このような指導を

本小単元では、第1次世界大戦より太平洋戦争の終結、戦後の我が国の復興の様子まで、めまぐるしく移り変わっていった時代を学習する。本小単元の構成としては、①社会運動の高まりと普通選挙法 ②満州事変と日中戦争 ③第2次世界大戦と太平洋戦争 ④戦後の復興 ととらえているが、このうち、①～③までを当時の我が国の時代背景としてとらえ、④の民主的な国家として復興していく姿を前単元である明治時代の学習と重ね合わせながら進めていきたい。

そこで、まず、つかむ段階において、15年間の戦争に関わる学習について調べ活動を通して、当時の我が国がどのような時代背景であったのかについておさえていきたい。歴史学習の最後である本小単元を進めるためには、これまでの学習で獲得した知識を活用させたい。例えば、15年にわたる戦時中の姿は日清・日露戦争のころの我が国と、戦後は、条約改正に奔走した陸奥宗光・小村寿太郎の学習を想起させながら進めていくことで、新しい国のあり方を考え、実現していこうとする人々の姿にふれさせることができる。

また、戦後の我が国が復興した象徴としてオリンピックの開催を取り上げ、3度も開催できたわけを学習問題として設定し、「外国に認められたから（外交）」と「国内の充実（内政）」という2つの視点から追究させることで、子ども達に多様な見方・考え方を促していくことができる。

さらに、2つの視点で調べたことをもとに、一つ一つの事実のとらえ方や事実と事実の関連付けなどについての話し合いを行うことで、国の内外に多様な政策を打ち、その積み重ねにより、我が国は、現在、民主的な国家として世界の中で重要な役割を果たす国になったということを理解させるようにしたい。

具体的には、まず、【つかむ段階】のA1の活動において、上述のとおり、条約改正の学習からヒントカードを準備し、学習問題に対し、「外国に対しての働き（外交）」と「国内の充実（内政）」という2点から根拠ある予想を立てさせたい。平和学習を通して学んだ現在の我が国の様子を考えれば、「戦力を整えたから」という予想は立てにくく、子どもは、「外国に認められた」という予想については、「人々の働き」や「産業の発展」という点から根拠を挙げられると思われる。また、「国内の充実」に対しては、「政治の確立」や「国民生活の向上」を根拠として挙げるであろうと考えられる。

次に、【さぐる段階】のA2の活動では、調べてきた一つ一つの事実が、なぜ自分の考えにつながっているのかを発表し、検討させることで、事実認識を深めていきたい。また、そのときに、事実カードどうしの関連についても検討させることで、共通しているものを分類したり、時系列で考えさせたりすることで、自分の考えを整理させていきたい。

さらに、【まとめる段階】のA3の活動では、2つの予想のグループに分かれて、自分たちの考えをより正確に相手に伝えるために、どのような表現物を作成すればよいかについて、事実カードを吟味させたい。その際、似たような事実カードを比較することで、どのような資料を使えば考えが相手により伝わりやすいかということや、カードを差し替えたり、動かしたりしながら具体的な操作活動を行わせることによって、事実の関連性に気づかせるなど、自分の考えをさらに確かなものにしていきたいと考える。

最後に、A4の活動では、B3で作成した視点ごとの表現物を用いて話し合いをさせ、最終的な自分の考えをつくるために、B2までの表現物の見直しをさせるようにしたい。

3 小単元の目標

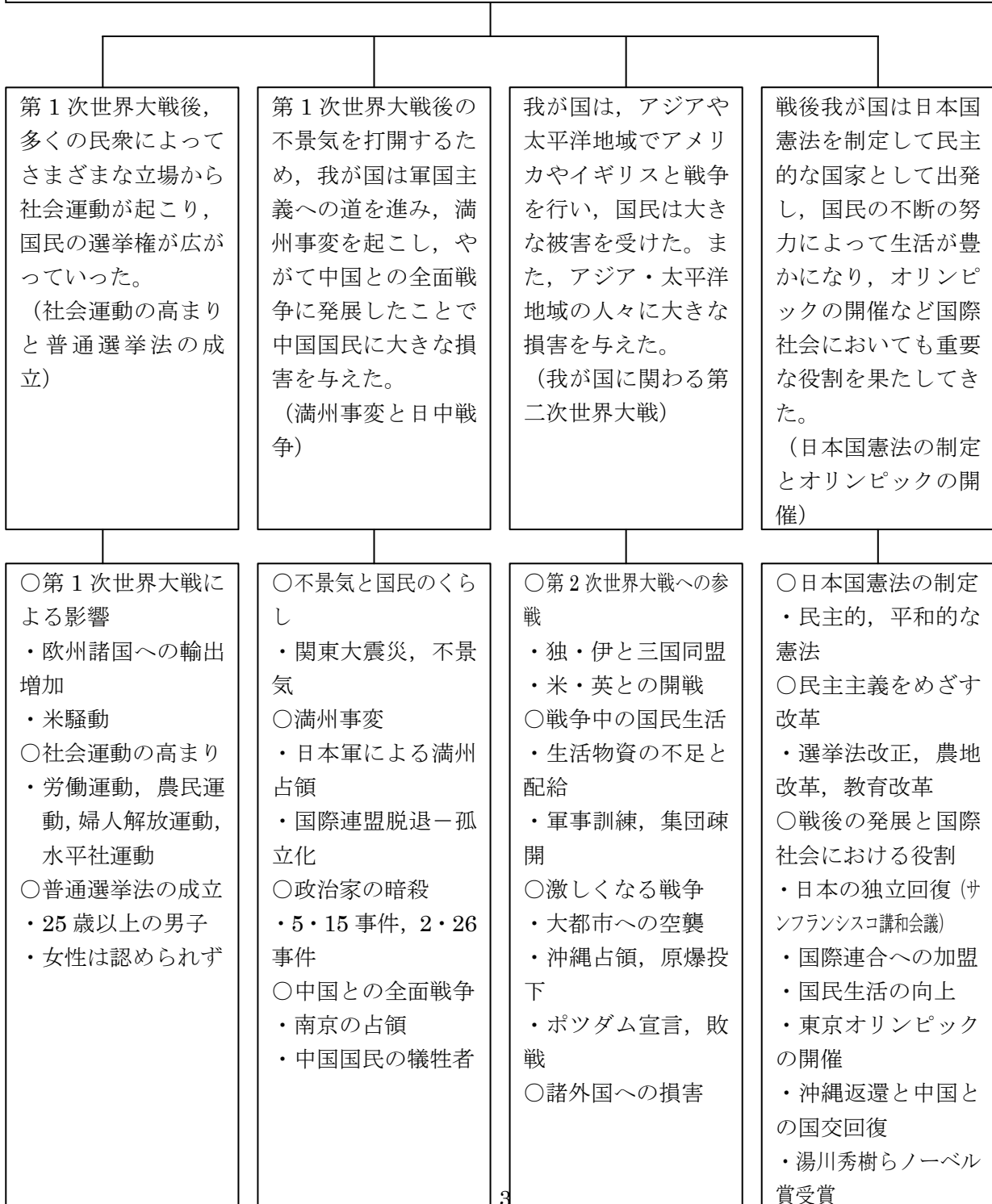
- 15年にわたる戦争の様子や、戦後の日本の復興の様子に関心をもち、平和な国づくりに努力をした人々の働きについて意欲的に調べようとする。
- 戦後の日本が目覚しい復興を遂げたわけとして、国内の政策や外国との関係、人々の思いなどに

ついて、考えることができる。

- 我が国の復興の様子について、自分の予想に沿って資料や年表などを活用し、表現物にまとめるとともに、相手にわかりやすく伝えようとするすることができる。
- 戦後我が国は民主的な国家に生まれ変わり、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などの事象や当時の人々の働きから理解することができる。

4 小単元構成

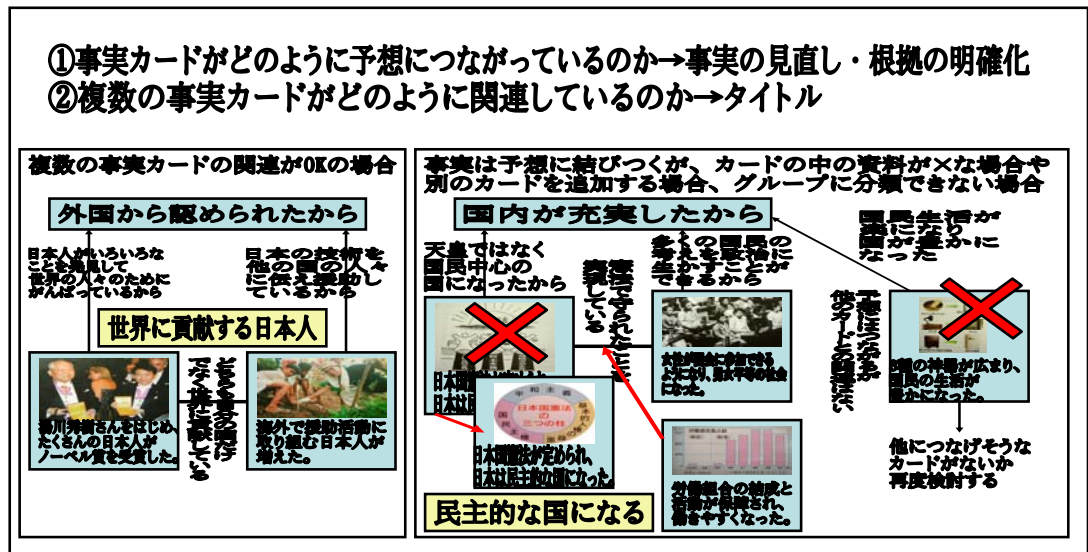
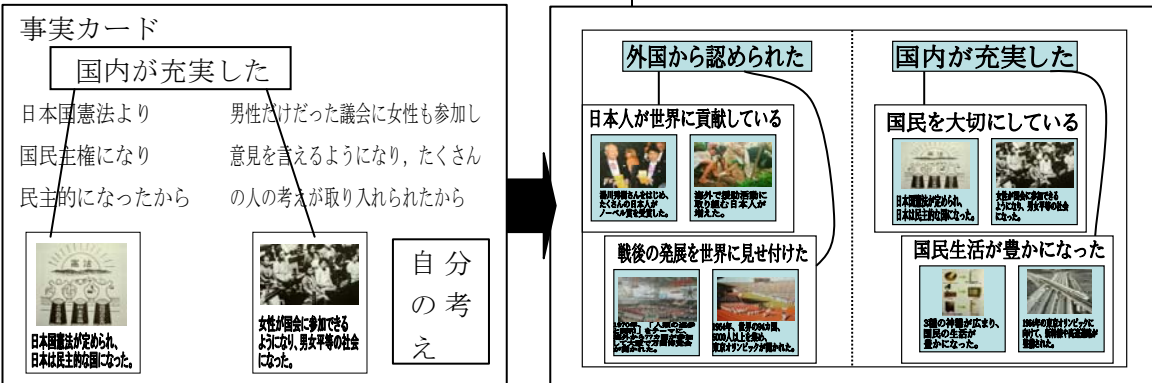
我が国は日華事変や第二次世界大戦という二つの大きな戦争を行ったことで、国民は大きな被害を受け、また、中国をはじめとする諸国に大きな損害を与えた。戦後は、この戦争の反省に立ち、日本国憲法を制定して、民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、オリンピックの開催など、国際社会においても重要な役割を果たしてきた。



5 指導計画 (12 時間)

段階	時	主な学習活動と内容	教師の支援・話し合いと表現物
つ か む ／ さ ぐ る	3	<p>1 年表作りを通して、15年にわたる戦争と敗戦までの我が国の様子について調べる。</p> <p>① (1) 第1次世界大戦の頃の我が国について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 欧州への輸出増加 ・ 社会運動の高まり ・ 普通選挙法の成立 <p>① (2) 日中戦争について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不景気と軍国主義 ・ 日華事変, 国際連盟脱退 ・ 南京事件, 激しい日中戦争 <p>① (3) 第2次世界大戦, 太平洋戦争について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日独伊三国同盟 ・ 米・英との開戦 ・ 戦時中の国民生活と原爆 ・ ポツダム宣言と敗戦 	<p>○ 15年にわたる戦争をしていたころの我が国の様子について調べさせ、年表作りを行うとともに、学習プリントにまとめさせることを通して、戦争をしていたころの我が国の概要をおさえさせるようにする。</p> <div data-bbox="946 719 1430 927" style="text-align: center;"> <p>戦後 (60 年前) 現 在</p> </div>
	1	<p>2 戦後の焼け野原と現在の復興した都市の写真及び、この60年間の間に我が国で3度もオリンピックが開かれたことから、気づいたことを話し合い、学習問題をつくる。</p> <p style="text-align: center;">学習問題</p> <div data-bbox="272 1160 900 1245" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>我が国は、なぜ、戦後60年の間に3度もオリンピックを開くことができたのだろう。</p> </div> <p>3 学習問題に対する予想を話し合い、追究の視点をもつ。</p> <p>① (1) ヒントカードをもとに学習問題に対する予想を立てる。</p> <div data-bbox="272 1496 884 1854" style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>外国から認められたから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人々の努力 ・ 外国への協力 ・ 産業の発展 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>国内が充実したから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 政治による国の安定 ・ 国民生活の向上 </div> </div> <p>① (2) 予想について話し合い、自分が追究していくための課題をもつ。</p> <div data-bbox="874 1621 1453 2038" style="text-align: center;"> <p>【ヒントカードの活用 A1 B1】 ～前単元の条約改正の学習をもとに～</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>憲法や国会をつくって、みんなが平和に暮らせるようにした。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>欧米諸国に負けないように建物や道路などを整備した。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>八幡製鉄所を作って工業に力を入れた。</p> </div> </div> <p>外国と同じような国づくりを進めたから 明治維新のときと同じで、外国に気に入られるように 国の中が落ちついてきたから 産業に力を入れれば、国が豊かになり、外国にも対抗できるから</p> <p>< 予想 ></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>外国から認められたから</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>しくみが整い、国内が充実したから</p> </div> </div> </div>	<p>○ 戦後と現在の同じ場所の様子を提示し、比較させることで、我が国が劇的に発展したことに気づかせる。</p> <p>○ 過去のオリンピック開催状況を提示し、我が国が3度も開催していることに気づかせる。</p> <p>○ オリンピックを開催するための条件を提示し、開催することがいかにたいへんであったかをおさえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境面・IOC・経済面など <p>○ 歴史を振り返ったとき、敗戦後、新しい国づくりを行う点が、明治政府の新しい政治と似ている点に着目させ、ヒントカードを利用し、予想を立てさせる。</p> <p>【ヒントカードの活用 A1 B1】 ～前単元の条約改正の学習をもとに～</p>

<p>さ ぐ る ／ ま ま と め る</p>	<p>3 4 追究の視点に沿って調べ、自分の考えをつくる。</p> <p>② (1) 自分の予想に沿って調べる。</p> <p>① (2) 調べたことをもとに、事実カードを使って表現物を作成し、自分の考えをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事実カードが予想につながるわけの検討 ○ 関連付けられるカードの分類ー視点づくり 	<p>【事実カードの活用 A2 B2】</p> <p>○ 子どもの見つけた事実をモデルとして提示し、事実がどのように学習問題につながるのか検討し、事実カードを作成する。</p>
	<p>1 5 同じ予想をもとに調べた子でグループをつくり、表現物を見直す話し合いを通して、グループの表現物を作成する。</p> <p>(1) モデルが表現物をもとに発表し、検討することを通して、事実認識を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <1つの事実カードを> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルの予想にどのようにつながっているのか ・事実カードの資料はよいか <複数の事実カードを> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように関連付けたのか→視点 ・事実カードの資料はよいか ・分類した事実カード群のタイトルはどうか 	<p>【相手にわかりやすい表現物するために A3 B3】</p> <p>【グループでの話し合いと表現物作成 A3-B3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各グループに分かれ、話し合わせた事実をもつ子どもをモデルとして提示し、事実をどのようにとらえているかや複数のカードをつなげたわけを検討させる。 ○ モデル以外の子どもから事実カードと予想につながるわけを挙げさせ、事実認識を深める。 ○ 関連する事実をグループ分けし、どのような点でまとまっているのかに着目させ、タイトルをつけさせる。



<p>ま と め る</p>	<p>(2) 各グループでモデルの表現物をもとに話し合い、グループの表現物作り (B3) をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> </div> <p>(3) グループで作成した表現物をもとに、自分の考えを書き、グループとしての考えをまとめる。</p> <p>2 6 考えを伝え合い、自分の考えを見直す。</p> <p>① (1) 全体での話し合いをもとに、自分の考えを見直す。</p> <p>① (2) 自分の最終的な表現物を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 相手の考えを取り入れて、2つの視点から表現物を完成させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 【外国に認められた】グループと【国内が充実した】グループに分け、それぞれの視点から事実カードをもつ子どもをモデルとして提示し、事実の検討、関連付けについて話し合わせ、分類及びタイトルつけをさせる。 ○ グループで作成した表現物をもとに、一人一人に自分の考えを書かせ、発表させる。 【より確かな考えをつくるために A4 B4】 ○ A3 及び B3 の活動からつくった自分の考えをもとに、モデル児童を選定し、2つの視点から発表させる。 ○ B2 で作成した表現物をもとに、不足している事実を追加したり、所持している事実カードを見直したりして、最終的な自分の考えを書く。
----------------------------	--	---

6 本時 平成 18 年 11 月 14 日 (火)

第 6 学年 1 組教室

7 本時の目標

- 同じ予想のグループで、モデルの表現物をもとに、事実と予想の結びつきや事実と事実を関連付けたわけについて話し合い、表現物を整理することで、自分の考えを確かに行うことができる。

8 本時指導の考え方

本時は、子どもが自分の予想に沿って調べてきたものを事実カードとして準備しているものの中から、話し合いに挙げたい内容である事実カードをもつ子どもをモデルとして提示する。モデルについては、次のような点を選定するための条件とする。

【モデルの選定条件】

- 複数の事実カードが予想に結びつき、
 - ① 事実どうしが関連付けられ、複数の視点をもつケース
 - ② 事実カードの中の資料(写真やグラフ)が不十分で、別の事実カードに差し替えるケース
 - ③ まったく新しい事実カードを追加するケース

以上のような検討すべき内容が考えられる事実カードをもつ子どもを、2つの予想により分けたグループごとにモデルとして提示し、なぜ、その事実が自分の予想につながるのかという点や、事実と事実がどうして関連付けられるのか、あるいはその写真や図が根拠となりえるのかなどの点に

ついて全員で検討する話し合いを行う。さらに、その話し合いをすすめるなかでグループとしての表現物を作成させるようにしたい。

そこで、学習の手順として、まず、各グループの話し合いにおいて、【外国から認められた】グループでは、次のようなモデル児童を出し、事実カードを中心に話し合いを進めるようにする。モデル児童は、ノーベル賞の受賞や海外での援助活動の事実カードを挙げ、「多くの日本人が、自国のことにとらわれず、世界に貢献している姿」を通して、予想につながるわけを話す。そのことについて、同じ考えをもつ子どもより、自分は事実をどのようにとらえ、予想に結び付けたかを話させるようにする。ここでは、2つの事実カードの関連が見えやすく、関連付けた言葉から世界に貢献する日本人というタイトルをつけさせるようにする。また、サンフランシスコ講和条約や日ソ国交回復という事実カードに他の子どもから日中平和友好条約という事実カードを提示させ、関連付けさせることで、「平和な国を目指し、外国と協力していこうとする姿」をとらえさせる。さらに、モデル児童にはない新幹線、高速道路、電化製品の伸びなどの事実カードを他の子どもから提示させ、比較検討する活動を通して「我が国が技術力を高めたという姿」をとらえさせるようにし、表現物に付け加えることで、外国から認められたわけを3つの視点から整理させていきたい。

一方、【国内の充実】グループでは、子ども達は、国内の充実には、「国そのものが諸政策を行い、民主的な国家となったこと」と、「産業が発展し、国民生活が豊かになったこと」の2点をおぼろげながら視点として追究を進めてきている。そこで、モデル児童としては、以上の2点から事実を集めてはいるものの、考えを深めるにはさらに他の事実を必要としている子どもを提示したい。まず、モデル児童に、日本国憲法の制定と女性参政権の事実カードを提示させ、「憲法で国のしくみが整ったことや、男女の意見が国政に吸い上げられるようになったこと」を、予想につながるわけとして話させるようにする。ここでも、同じ視点で事実カードをもつ子どもから、どのように事実をとらえ予想に結び付けたかを発表させ、事実の検討を図り、認識を深めるとともに、モデル児童が気づいていない事実についても他の子どもから取り上げるようにしたい。例えば、それは、農地改革や義務教育、選挙改正などである。モデルにない事実カードを挙げ、それがどのように予想につながるのかを考えさせることで、我が国が行った数々の諸政策とその意味が見え、当時の我が国が民主的な国家をめざし努力した姿が理解できると考えられる。また、モデル児童が挙げた事実カードと同じ事実ではあるが、資料(写真やグラフ)が違う子どもを提示し、その資料からどんなことがわかるのかを比較させる活動を通して、より自分たちの考えが表れているものに差し替えたり、付け加えたりすることができるようにしていきたい。具体的には、憲法の事実カードにおいて、公布の際の写真と3つの柱の資料を比較させ、自分たちの言いたいことが表れているのはどれかという点を考えさせていく。次に、もうひとつの視点である「国民生活の向上」につながる事実カードに目を向けさせる。モデル児童は、新幹線という事実を「国内を自由に行き来できるようになった」として提示するが、その土台となる産業が発展した様子や貿易で利益を得たことなどについては気づいていない。そこで、他の子どもより、産業が発展したグラフや貿易により利益を得ていることがわかるグラフ、また、3種の神器や自動車の普及率の伸びがわかるグラフなどを事実カードとして提示させ、予想につながるわけや事実と事実が関連付けられるわけを検討させることで、「産業(工業)が発展し、いろいろな物がつくられ、外国との貿易で利益を上げるとともに、国民の生活が豊かになった。」という考えを導き出したい。

【国内の充実】グループについては、以上2つの視点、「民主化をめざし、諸政策を打つことで国のしくみが成立したこと」と「産業が発展し、国民生活が豊かになったこと」をとらえさせ、国内の充実という意味を理解できるようにしたい。

最後に、グループで表現物を作成した後、一人一人に自分の考えを書かせ、発表させることを通して、自分たちのつくった表現物をもとに、全体会ではどのような発表をすればよいかについて話し合わせる。

＜まとめる段階：自分の考えをより確かにするための話し合いと表現物作りの場面＞

児童が自分の予想に沿った調べ学習をした後、同じ視点で調べた児童どうして話し合い、自分の考えを明らかにしていく中で、事実をひとつひとつ見直し、もっとわかりやすい資料（グラフや図）や説明のしかたを検討すれば、より確かな自分の考えができるであろう。

＜本時検証のポイント＞

①モデルを示し、グループで具体的操作をしながら検討したことが、表現物作りに生きたか。

事実カードを具体的にはりかえたり、追加したりしながら、モデルの提示した事実と自分たちのものとの比較・関連付ける作業をしたことで、考えを整理するための表現物になりえたか。

②自他の事実カードを比較し、一つ一つの事実や資料の見直しをしたり、事実と事実の関連付けを図ったりすることが、事実認識を深め、自分の考えを確かにする上で有効であったか。

モデルの提示した事実をもとに、それぞれの考えを出し合い、事実と予想のつながりや事実と事実の関連付けを明らかにしていくことが、事実認識を深め、予想につながる視点をもたせる上で効果があったか。

9 本時の展開

学習活動	支援	表現物の活用
<p>1 めあての確認と学習の見通しをもつ。</p> <p>各グループで、モデルをもとに事実カードを検討し、グループの表現物を作り、自分の考えをまとめよう。</p>	<p>○本時学習の流れを掲示しておき、見通しをもたせるようにする。</p>	
<p>2 各グループに分かれ、モデル児童の考えをもとに話し合う。</p> <p>(1)モデルをもとに事実カードについて検討する。</p> <p>○2つのグループともそれぞれのモデル児童が事実を挙げて、検討する。</p> <p>【外国から認められたから】</p> <div data-bbox="173 1556 606 1814"> <p>複数の事実カードの関連がOKの場合</p> <p>外国人から認められたから 日本人がいろいろなことを発明して世界の人のためにがんばっているから</p> <p>世界に貢献する日本人 海外で援助活動に取り組む日本人が増えた。</p> </div> <p>【国内が充実したから】</p> <div data-bbox="510 1825 965 2072"> <p>国内が充実したから</p> <p>民主的な国になる 日本国憲法が定められ、日本は民主的な国になった。</p> <p>海外で援助活動に取り組む日本人が増えた。</p> </div>	<p>○どちらのグループからも、次のようなモデルを出し、話し合いを進めるようにする。</p> <p>①複数の事実カードが関連付けられ、事実どうしが結び付けられるわけを通して、タイトルをつけさせるようにする。また、②事実カードの資料を差し替えるケース③新しい事実カードを追加するケース</p>	<p>【事実カードの検討】</p> <p>○まず、モデルより事実カードを提示させ、なぜその事実が予想につながるのかを明らかにさせる。その上で、事実認識を深めるために、他の子どもから付加させたり、質問させたりする。</p> <p>○①事実と事実の結びつきを検討するために、複数の事実カードがどのように関連付けられるのかについてモデルに発表させ、他の子どもからも考えを発表させる。関連付けたわけからタイトルをつけるようにする。</p> <p>○②「事実カードを差し替えるケース」では、自分の考えの裏づけをさせるため、同じ事実ではあるが、違う資料をもっている子どもを出し、資料のどこからわかるのかを挙げさせながら比較させる。</p> <p>③「新しい事実カードを追加する</p>

<p>(2) 他の児童は、モデルの示した事実カードと共通するものを挙げ、自分の考えを話す。また、グループで共通しているかどうかの判断をし、事実カードを分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ事実カードの場合 ○ 同じ事実ではあるが、資料が違う場合 →どちらがよいか ○ まったく新しい事実の場合 →必要かどうか ○ 別の視点につながる事実の場合 →必要かどうか <p>3 表現物作りを通して、自分の考えをまとめ、グループとしての考えをつくる。</p> <p>(1) 自分の考えをかく。</p> <p>(2) 考えについて話し合う。</p>	<p>○モデル児童の事実カードと自分の事実カードを比べながら、予想にどのようにつながるのかを検討する。</p> <p>○事実カードの比較の際、先ほどの話し合い活動をもとに、左のような4つの点から検討する。</p> <p>○互いの考えを提示し、複数の事実カードが関連しているわけに着目させて、タイトルを作成させる。</p> <p>○表現物を見直させることで、表現物に表されている視点が自分の考えに生きるようにする。</p>	<p>ケース」では、事実認識を深めるために、他の子どもに事実カードを提示させ、予想につながるわけとカードが関連するわけについて話し合わせる。</p> <p>○モデル児童が事実カードを提示したときに、それに関わる自分の事実カードを選ばせ、友達の考えを聞かせるようにする。</p> <p>○事実カードを検討する際は、比べるものを並べたり、資料の見せたいところを指し示したり、あるいは、他の子どもから貼り付けさせたりして、カードを操作しながら話し合わせるようにする。</p> <p>○自分の考えを別紙に書き、まとめさせる。</p> <p>○グループで考えを発表し、グループとしての考えをまとめさせる。</p>
--	--	---

